

歴史の華鏡

94回

土佐の製紙産業

を支えた三極

この町紙の博物館

田邊 翔

和紙の三大原料として挙げられるのは、楮・三極・雁皮である。この中でも三極は製紙原料としては新参である。新参ではあるが、高知と三極との関係は深い。

三極が紙の原料として広く使われたのは江戸時代からで、土佐においても山間地帯に古くから自生し、文化三（一八〇六）年にすでに抄紙されている。ただ、当時は原料を煮るのには木灰・石灰を使用しており、これにより紙質が悪く、楮紙と比べて下位に位置付けられていた。

しかし、明治に入ると、木灰・石灰よりもより強い働きをする苛性ソーダを煮熟剤として使用することにより、三極が高級紙としての真価を発揮することになる。なめらかで光沢があり、透かし模様も入れることができる特徴があり、栽培も容易であることから、紙幣用原料として採用されるに至ったのである。

高知における三極栽培の起源は明治十七（一八八四）年といわれる。三極の有用性を見抜いた当時の伊野町の吉井源太氏が、静岡県から直ま



●三極の花

きの可能な三極の種を移入したことに始まる。その後県下各地に広まり、明治二十三・二十四年にはほとんど全県下で栽培され始め、紙業の隆盛とあいまって土佐産業の発達に寄与した。三極が深い峡谷や山岳の日光の終日直射しない湿潤な場所を好むことから、山間地帯の重要な物産としての地位を確保していった。

数値上も突出している。例えば、昭和二十六（一九五二）年度における生産高（黒皮換算）は、全国一位を占めており、全国比四十一％超を誇っていた。高知の自然条件と先人たちの熱心な活動がうまく合致した成果が伺える。

現在では和紙の生産が減ったことに加えて高齢化に伴う後継者難も重なり、生産量は減少の一途をたどっている。しかし、紙幣の他にも、図引紙や圧写紙など、三極原料の新しい紙がかつては多く開発され、それらは現代の機能紙と呼ばれる紙にながっている。この時開発された紙は、その後の高知県紙業界を支える元となったのである。

市長コラム

内和の外順

高知市長 岡崎誠也

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染症の感染拡大が、なかなか治まりません。

高知県内においても、毎週新たな感染者が出ています。

高知市の保健所におきましても、第一例の患者さんが確認されて以降、高知県と高知市が連携して、それぞれの発症事例に応じて感染経路の追跡を行い、早期の発見に努め、感染防止に全力を挙げています。

可能な限りの追跡調査が功を奏し、感染者を早めに確認することができています。

その一方で、感染経路が不明のケースもあり、東京都をはじめとする地域を対象に、緊急事態宣言が出されるなど、深刻さが増してきています。

まずは、新型コロナウイルスへの感染拡大を防止し、早期に収束させていくことが重要です。

地域の経済にも深刻な状況が続いているため、市民の皆さまの生活の下支えを行うことによる、雇用の維持や事業の継続が重要になります。



国における新型コロナウイルス対策の緊急支援などの補正予算等が示されましたので、高知県とも連携しながら、できる限り、早期の経済支援を実施してまいります。

過去に例に見えない、まさに困難ともいえる新型コロナウイルス感染症による地域経済の疲弊に対して、官民一丸となって対応していく必要があります。

国や県と緊密に連携し、関係機関と共に、総力を挙げて、この難局に対応してまいります。



MT HA 安心の全国 86 店舗 ネットワーク

新日本補聴器センター 高知店

試聴・貸出・調整メンテナンスは全て無料で承ります。

高知市北本町2丁目1番12号 駐車場有り(ホテル港屋第1パーキング内)

営業時間 午前9時～午後5時 定休日 日曜・祝日・第4土曜

TEL 088-885-5855

※木・金曜日留守の場合があるためご連絡下さい。ご相談により、時間外相談・訪問も承ります。